

# 日本語に通じない児童生徒へのデイジー教科書の利用促進プロジェクト事業 今後の普及についての提案



デイジー教科書製作グループ  
NPO法人NaD  
濱田滋子



# 今後の普及に向けての提案

- (1) 教育委員会によるデイジー教科書の一括申請を推進
- (2) 教科書出版社によるアクセシブルなEpub版の同時出版（ボーンアクセシブル出版）

# (1) 教育委員会によるダイジー教科書 一括申請の推進

- ダイジー教科書利用者数（2023年度）  
約25000名
- 教育委員会・学校図書館申請数（2024年度）  
計646団体（参考：2024年度 全国の市町村数1,741）  
利用者数の半数以上

\*日本障害者リハビリテーション協会報告より

- 
- 学習面で著しい困難を示す 6.5% 約57万人（2022年文科省調査）
  - 「読む」又は「書く」に著しい困難を示す 3.5% 約30万人（〃）
  - 公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数 約69000人  
（2023年文科省調査）

## 教育委員会による一括申請の利点

- 多くの外国人の親御さんにとって申請作業は難しいと考えられるが、その負担がなくなる。
- デイジー教科書を知らない先生や親御さんにデイジー教科書をつなぐことができる
- 教育委員会で使い方等の勉強会や研修会をし、情報を先生同士で共有できる
- 障害者の担当部署と外国人児童生徒の担当部署の違いをまたいで情報が共有される

## (2) 教科書出版社によるアクセシブルな Epub版の同時出版 (ボーンアクセシブル出版)



デイジー教科書製作はボランティアが担っている

- 継続した製作の保証がない

製作者の高齢化・後継者不足

- 4年に一度の改訂があり、作れども作れども際限がない
- 教育の専門外のボランティアが2万人を超える児童生徒の教科書を扱っている

# 出版社が合理的配慮としてアクセシブルなEpub版を出版する

障害者差別解消法が改正され、2024年4月より事業者による障害のある人への合理的配慮の提供が義務化

障害のある児童生徒が教科書をデイジー化（アクセシブルなEpub化）をしてほしいと言えば、教科書出版社はアクセシブルなEpub版を出版しなければならない



# 教科書出版社によるアクセシブルなEpub出版（ボーンアクセシブル出版）

- 墨字本と同時にアクセシブルなEpub版（デイジー教科書）を手に入れることができる。
- 子ども自身が自分の意思で自分に合う教科書を選択することができる
- 出版社が各自作ったEpubでも、一つの無償のリーダーでアクセシブルな形で再生できる
- だれもが情報を共有し、学ぶ権利を保障される、インクルーシブな社会の実現におけ前進

# ***Daisy for all***

